

平成 30 年度

学 校 評 価

<記入上の留意点>

- 評価Ⅰは教職員、評価Ⅱは校園長、評価Ⅲ・評価Ⅳは学校関係者評価委員の評価を記入する。
- 評価Ⅰは小数第一位まで記入する。評価Ⅱは4段階を基本とするが、0.5刻みまでを許容とする。評価ⅣはABCDで記入する。
- 学校の実態に応じて評価内容を追加して設定することができる。

◎ 評価Ⅰ、評価Ⅱの基準

4	十分達成できた
3	達成できた
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅲの基準

4	よく取り組んでおり、成果が大きい
3	熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
2	取り組んでいるが、成果は十分でない
1	取組が不十分である

◎ 評価Ⅳの基準

A	優れている
B	適切である
C	おおむね適切である
D	要改善

尼 崎 市 立

中 央 中

学 校

平成30年度 学校評価

[各校の重点取組について]

- ・学校生活の基本の確立と生活習慣の改善(3S運動や家庭学習の習慣化等)
- ・不登校生徒への対策(不登校生徒減少に向けた取組等)
- ・道徳の時間の量的及び質的課題の克服(来年度の実施に向けた実践)
- ・定時退勤日の完全実施(中央中学校版My定時退勤日のさらなる推進)

学校教育に関する重点取組

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	(1) 授業改善の取組を促進するとともに、家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する (3) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (4) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る	2.9
取組とその成果	課題と改善策	
①校内教科部会において教科目標、個人において個人目標を年度当初に設定し授業研究を行う。年度末には教科・個人の達成状況を振り返り次年度への課題を設定する。また、学習習慣を身に付ける手段として、放課後学習等を実施し、学習の仕方を学ぶ。 ②全ての生徒が分かる授業をめざし、ユニバーサルデザイン化の授業及び環境整備を行う。 ③家庭科の授業及び昼食指導等においてバランスの良い食事と規則正しい生活習慣の確立を図る。 ④体育科の授業やクラブ活動等を通して、健康な身体づくりに努める。	①教科目標、個人目標の達成状況の振り返り、反省を確実に行うとともに、次年度に向けた課題設定をしていく。 ②一人一人の生徒への合理的配慮のある指導方法や評価を検討する必要がある。 ③家庭科教員や学級担任が授業や昼食時等においてバランスの良い食生活について定期的に啓発活動を行っていく。また、保護者には学校だよりやPTAの会議等において、朝ごはんの摂取やその内容についての啓発を行う。 ④体育科の授業やクラブ活動において、スポーツの楽しさや健康への配慮等について指導を行っていく。	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	(1) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (2) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかわりづくりに努める (3) 各校のいじめ防止基本方針に基づき、誰もがすこしや学校環境づくりに努める (4) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する	2.9
取組とその成果	課題と改善策	
①3S運動(静か、整理整頓、姿勢)を小学校と連携し推進していく。また、本校学校生活の基本である『時を守り、場を清め、礼を正す』の徹底を図っていく。 ②不登校生徒が少しでも登校しやすいような環境づくりに努める。 ③道徳の時間を35時間確実に確保する。また、道徳教育推進教師を中心に、道徳の教科化に向け評価方法について研究を進める。 ④いじめの未然防止・早期発見・早期対応等について、本校の『いじめ防止基本方針』に照らして組織的な対応を図る。 ⑤トライやる・ウィークや学級活動、体験活動、進路学習等を通じて、夢や目標を持ち、それに向かって進むことのできる力の育成を図る。	①3Sのポスターを本校区の小・中学校の廊下や教室に掲示し児童生徒への啓発を行う。また、時・場・礼については学校だよりや集会等で意識の高揚を図る。 ②学級担任、不登校担当を中心に保護者と連携を図りながら対応を図っていく。また、教室に入りづらい生徒に対しては、本校の学習室や関係機関を活用しながら支援を行っていく。 ③学年の教員集団、道徳教育推進教師を中心に道徳の時間の質と量の確保を図っていく。また、研究推進委員会が中心になって道徳の授業づくりや評価方法等の研修を実施する。 ④学級担任や生徒指導担当を中心に組織的にいじめへの対応を図る。 ⑤トライやる・ウィークは、PTAの協力を得ながら社会とのつながりや他者と協力することを通して自己肯定感や生きる力を醸成する。	

3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む (1) 教職員の資質向上の取組を促進し、業務改善を進めながら学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、地域とともにある学校園づくりを推進する	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	2.7	2.5
取組とその成果	課題と改善策	
①道徳教育の学識経験者を年間5回程度招聘し、授業づくりや生徒の自尊感情を高める研修を実施し、道徳の時間の授業力向上を図る。 ②定時退勤を18時～19時を目安として週1回設定し完全実施をめざす。 ③県教委発行「GPH50」を参考に、中央中学校版「My定時退勤日」を設定し実践する。 ④地域の人材を発掘し、生徒の教育活動に活用する取り組みを行う。	①学識経験者の招聘により道徳の時間の授業づくりについて共通理解する。また、各教科等においても道徳教育を推進し、生徒がよりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。 ②週1回の定時退勤の完全実施を推進する。 ③My定時退勤日の設定及びその推進を図る。 ④放課後学習への支援やクラブ活動等において地域人材の活用を図る。	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る (1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び学校園内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	3.2	3
取組とその成果	課題と改善策	
①命を守るために、自転車教室やAED等の講習会・授業を実施し、安全に配慮した行動のできる生徒を育成する。 ②学級活動や実践的な避難訓練等を通じて、津波や地震、火災等に対する防災・減災意識を高める。	①生徒向けに自転車教室や携帯・スマートフォンなどの安全な使用方法、また、身近な人によるDVの講演等を実施し、生徒自らの身を守る方法を具体例から学ぶ。また、教員には、養護教諭を中心に、医師や救急隊の協力を得ながら、AEDをより実際に近い場面で使用方法やチームとしての対応方法を研修する。 ②防災教育担当を中心に、消防署の協力を得ながら年間2回の実践的な避難訓練を行い、生徒の防災・減災への意識の高揚を図るとともに、非常時における教職員の行動について研修を図る。	

教育目標 (1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	2.8	2.5
取組とその成果	課題と改善策	
①学校生活の基本である『時を守り、場を清め、礼を正す』を実践させ、落ち着いた学校生活を送らせる。 ②教科指導や生徒指導等、教職員の組織的な対応により、知・徳・体のバランスのとれた生きる力を育む教育活動を推進する。	①生徒指導担当を中心に、学校生活の基本を日常的に指導し、落ち着いた学校生活を送ることのできるよう啓発を行う。 ②校務分掌による各担当者を中心にして組織的な取り組みを実践し、生徒の生きる力を育む。	

研究テーマ	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
	2.9	2.5
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実		

取組とその成果	課題と改善策
研究テーマ 「学びに向かう力」をはぐくむ指導の工夫 －主体的な学びを引き出す学習指導－ －ユニバーサル化の推進－ －自尊感情を高める道徳教育－ ①ICTの活用、ペアトークやグループ学習等の授業形態を図りながら、主体的な学習態度を育成する。 ②ユニバーサル化に向けた授業づくりと環境整備を行う。 ③自分は大切な存在であることを道徳教育を中核として全ての教育活動で推進する。	①各教科の特性を活かしながら、生徒が主体的に学ぼうとする態度の育成を図る。 ②一人一人の生徒への合理的配慮のある指導方法や評価、また、様々な障害への対応を検討する必要がある。 ③自己肯定感や有用感を道徳の時間や各教科等において醸成する取り組みを継続的に実施する。

	評価Ⅰ(教職員)	評価Ⅱ(校園長)
取組とその成果	課題と改善策	

学校関係者評価

※ 評価Ⅲの基準

4:よく取り組んでおり、成果が大きい
2:取り組んでいるが成果が十分でない

3:熱心に取り組んでおり、今後が期待できる
1:取組が不十分である

学校関係者意見等	評価Ⅲ
<p>1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力の育成と健やかな体づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人目標を設定した授業研究の学期ごとの振り返りにより、個々の学力の向上がみられる。 ・情報発信に努めていることは素晴らしいことなので今後も続けてもらいたい。 ・学ぶ意欲の向上を図る手立ての充実。 ・先生たちの努力はPTAに携わっていた頃より認識してたが、その思いに子どもたちがどう考えどう思っているか、先生方とは温度差があるような気がする。子どもたち個々の理解度をもっと上げていくべき。 ・取り組みは出来ていると思う。また、学習習慣を身に付けるためにも、放課後学習などの実施、また保護者に協力してもらえるように取り組んでもらいたい。 	3
<p>2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業時間数35時間を今後も確保する必要がある。 ・全教科、領域で心の教育の充実に取り組んでもらいたい。 ・いじめをしない、人を思いやる心の教育が一番難しいように思う。保護者との連携が必要。 ・不登校生徒に対する環境作り、、いじめなどの早期発見・対応に取り組み、生徒の心身共に健全な育成・指導をお願いする。 	3
<p>3 家庭・地域・学校の連携を深め、活力に満ちた学校園づくりに取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の学校づくりのために今以上に地域人材バンクを充実させ、連携強化を図る。 ・それぞれの意識向上が大切である。 ・学識経験者による授業作りなどの実施で、道徳の時間の向上を図られてる点に期待する。 	3
<p>4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯、スマホの正しい使用方法を徹底し、被害者、加害者を出さない手段の充実を図る。 ・学校内における防災意識は改善しているが、一歩外へ出てからの意識改革は必要である。 ・先生・生徒・保護者全参加の講演会・授業などを実施し、それぞれの立場で身を守る方法、防災意識を高めていけるように取り組んでほしい。 	3
<p>■教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標の具現化のために教室内に掲げることも一法と考える。 ・先生たちの教育目標には、絶対的な信頼感を持って期待している。 ・落ち着いた学校生活ができるように、今後も課題と改善策に取り組んでもらいたい。 	3
<p>■研究テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かる授業の実施、一人ひとりの生徒を大切にした指導方法の充実を図る。 ・熱心に取り組んでいると思う。今後の成果に期待する。 	3
■	
<p>評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)</p>	評価Ⅳ
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か	B
自己評価の結果の内容は適切か	B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か	B